

総合安保戦略-改憲反動が攻撃粉碎

4.19~20 反憲学連の追放へ

現在の法学部は検閲検閲体制、学生会館の閉鎖、暴力ガードマン（関東軍）の常駐というような重弾圧体制の中にあり、学生の自主的な活動の自由がまったくありません。また文理学部では昨年秋、重弾圧体制と真向うから対決して来た銀ヘルに対してテロ・リンチを働きた文理学部を支配せんとする生長の家系右翼「反憲学連」が登場し、学内を武装制圧しています。

このような日大に於ける重弾圧体制や右翼「反憲学連」の台頭は、鈴木自民党政府のさまざまな反動化攻撃と無関係ではありません。今、日本の政府、資本は、韓国や東南アジアの民衆の日米帝国主義に対する闘いを押しとどめ、自国の利権を守るために、国家体制そのものを再編しようとしています。この国家の再編制が軍事だけでなく、政治反動と共に経済、社会、教育、大学政策をも貫く総合的な安全保障戦略として展開され、その表れとして、昨年の奥野法相の憲法改悪発言や、野党をも含めての北方領土返還運動や、天皇中心主義的な国家主義イデオロギー教育がはかられています。このようなものをもめざしているのが、日大の建学の精神であり、その先兵として登場したのが右翼反憲学連であることはあきらかです。

私達、日大法学部生も、昨年5月の大州蜂起へと上りつめた韓国の学生と固く連帯し、また昨年の筑波大生を中心に展開された全国学生共同斗争の地平を更に押し進めた質を持って、文理学部から呼びかけられた、4・19 全国集会、4・20 生長の家、反憲学連本部事務所への抗議行動等に参加して、いこうではありませんか。この4・19・20の続斗争を突破口に、日大の解放を勝ち取る斗いに、新入生、移行生の皆さんも参加することを希望します。

日大法自主闘座

連絡先 (452)3201

361・364

毎週金曜

PM 7:00~9:00